

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300153		
法人名	社会福祉法人エルム福祉会		
事業所名	グループホーム たじまの杜		
所在地	栃木県那須塩原市二区町500番5		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成27年10月1日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成27年7月10日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ソフト面として・・・家庭的な雰囲気重要視するとともに、利用者様を人生の先輩として尊敬の念を持ち、寄り添った支援・介護を行っている。開所4年目を迎え、今年度は特に、「終末期・看取り」についての支援体制を整え、全ての職員が少しでも安心して対応できるように指針をまとめていきたいと思っている。また、運営推進会議において、消防署の方や交番の方を交えた話し合いのを持ち、関係性を深め、災害対策の強化に努めていきたい。事業所の特徴として、ボランティアの方がたくさん来て下さり、活気があると感じている。今後ともオープンな事業所を目指していきたい。
 ・ハード面として・・・庭園は春に桜やつつじなどの花が、又、秋には色とりどりの紅葉などと四季折々の自然を感じることができる環境にあり、その恵まれた自然を生かし、建物の設計(暖炉や有線放送、家事動線や介護動線等)やインテリアデザインにもこだわりを持った。利用される方も職員も居心地の良い場所となるよう工夫している。特に、暖炉は、事業所全体を暖めてくれるだけでなく、停電時等、とても役に立つ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ハード面は自然に囲まれた事業所で、春には庭の桜がベランダから観賞できる環境である。建物の中央には暖炉があり、エアコンとは違った自然な温かさがある。インテリアは落ち着いた雰囲気施設感がない。有線放送を設置し、リズムカルな曲、ゆったりとした曲を状況に合わせて選曲し、事業所内に曲を流している。温度・湿度の管理や感染症の予防も行い、利用者が快適に過してもらえるように整備されている。
 ・ソフト面では、職員は何気ない利用者の会話の中からも、利用者本人の満足することはなんだろうと疑問を持ちながら話を聞いている。全職員が思った事を意見に出しやすい環境であり、その意見を職員間で共有しながら利用者のケアをしているので、利用者に対する支援が統一されている。また、色々なボランティアが来てくれるので、利用者も選択してレクリエーションに参加できる。自然に囲まれた、とてもオープンな風通しの良い事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	5つのスローガンを職員全員が暗唱しており、毎週月曜日の朝と全体職員会議にて必ずスローガンを声に出している。全員で大きな声で暗唱することにより、その意味を再確認している。 年度当初の全体職員会議において、H27年度の取り組みについて話し合い、ビジョンや目的を共有した。	職員全員が理念の意味を理解し、ケアを実践されている。職員のケアする思いは、将来自分がここで生活したいと思えるような事業所にしたいと考えて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設長は、地区の福祉協議会のボランティアに加入し、地域の一人暮らしの方への「友愛訪問」に参加している。また、地区の方が地区内でとれた新そばで「そば打ち」をしに来て下さる機会もある。利用者と共に地区の盆踊りにも毎年参加している。	地域の盆踊り大会に招待されて出かけている。利用者と一緒に歌を歌ったり、七福神の衣装を着ての踊りを披露したり様々なボランティアグループが訪問している。地域の公民館に利用者の作品を展示し、作品を見に出かけたりすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者が外出する場所(教会や行事)において、私共の支援の仕方などを通して、認知症の方への対応を説明する機会がある。二区町の公民館で、「認知症サポーター講座」が開かれ、参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、利用者の状況・行事などを説明した上で、委員の方からの助言や協力を得ている。また、具体的な課題を取り上げ話し合っており、ご家族様やご本人様が複数名ご参加いただいている。	役所関係者をはじめ、消防署の方や自治会、民生委員、ご家族、利用者などが参加されている。事業所側からの報告だけでなく、参加者の意見交換が行われている。運営推進会議の参加者からの意見を取り入れて実行された行事もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連絡を取り合っており、対応の仕方・書類に関する質問などに答えて頂いている。又、月に1回利用状況を市へ報告している。運営推進会議にも市の職員に参加していただいております、状況をお伝えしている。	毎月、市役所の担当者と話す機会があり、事業所の状況を報告している。制度変更があるときなどは、情報を共有し利用者、家族等にも伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の尊厳に配慮し身体的拘束をしないケアに努めている。また、パンフレットなどを閲覧し、知識の共有・注意喚起を図っている。	一昨年に高齢福祉課から出された、身体拘束に関する冊子をもとに勉強会を実施している。センサー、玄関の鈴、車椅子の利用方法など拘束をしないケアを共有し、利用者が快適に暮せるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する書類を職員間で回覧し、注意喚起をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度活用講座を施設長は受講し、資料などを回覧し、職員に伝達している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1時間程度の時間をかけて説明し、又、質問等がある場合にはその事に対して答える時間も取っているため、理解、納得は得られていると考えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」を設置し、利用者・家族・外部の方、職員などさまざまな方からの意見が反映出来るようにしている。現在意見箱から得られる意見は少ないが、ご家族が来所時にコミュニケーションを取り、様々な意見や思いを聞くことを徹底している。また、面会簿に意見を記入して下さるご家族の方もおられる。	職員は何気ない利用者の会話の中からも、利用者本人の満足することはなんだろうと疑問を持ちながら話を聞いている。その話の中で得られたものを職員で共有し運営に反映している。また、家族の意見も聞き取り、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日に職員会議・月1回全体職員会議を開いており、職員からの意見を聞く機会を設けている。	全職員が思った事を意見に出しやすい環境である。また、その意見を経営に反映し働きやすい職場を目指している。代表者は利用者だけでなく、職員の体調の変化等も気にかけて、職員を思う気持ちが感じられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度や資格取得に対する補助制度の導入により職員の質の向上も含めた就業環境の整備に取り組んでいる。職員の希望休日については出来るだけ配慮した上でシフト表を作成している。今年度より、リフレッシュ休暇(5日間)を導入した。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月の職員会議時に実施している。外部研修として実践者研修を受ける予定である。自己啓発として、資格取得補助制度を利用し、資格取得を目指している。昨年度介護支援専門員試験に1名合格し、今年度介護福祉士の資格を取る研修に2名参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	那須塩原市の地域密着型事業所連絡協議会及び介護支援専門員協議会に参加し、情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの話を十分に聞き取り、やりがいなどを計画にもり込み、本人の思いを出来る限り実現出来るよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話にじっくり時間をかけて聞くことにより、家族の困っている事、要望を把握するよう努め、又、事業所としてどれだけお手伝い出来るかを検討し、伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の生育、これまでの生き方、現在の状況、御家族様の要望など、よく情報を把握しスムーズに支援に入れるよう工夫し、その後については本人の様子を見ながら支援の方向性を検討できるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の気持ちを重要視し、尊重しながら家庭的な関係が出来るよう、日々取り組み、反省を生かしている。職員間での話し合いは密に行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来所された際は、事業所での様子を出来るだけ説明し、意思の疎通を大切に会話も多く持つようにしている。又、電話連絡も密にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教会に通っている方が、そこでの交流を通して本人様の生き生きとした姿が見られる。	利用者の希望により牧師様が毎週水曜日に来所し礼拝をしてくれる。俳句を投稿される方、決まった美容室に通われる方、手紙のやり取りなどの支援をすることで、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は良いが、なかなか中に入っていない利用者様に対しては職員が間に入って会話を成り立たせたり、レクリエーションの場で関わるタイミングを見ながら支援している。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在そのような事例は見られない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から話を聞いて、実現できるよう支援している。外仕事を自分の役割であると意識を持ち、職員と一緒にこなしている。又、キャッチボールやグランドゴルフを職員とすることもある。	利用者の要望を注意深い観察から読み取り、その利用者に合った趣味や作業を職員と一緒に取り組んでいる。利用者の趣味や好きなことを出来る限り行ってもらい、その趣味が個人のものだけでなく、他の利用者にも共有できる様に支援している。	現在ある情報以外にも、自分の意見をうまく伝えられない思いや意向を十分に聞き取り、支援することを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりとよく話し、その会話の中から本人の生活歴、暮らし方を探り、職員間での気づきを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーションなどを行う際は全員に声をかけるが、その時々利用者様の気持ちを大切に、促しはするものの参加・不参加は自由にしている。計算ドリルを個別に購入し取り組んでいただいたり、洗濯物たたみやモップかけ、外の掃き掃除などを手伝うことを通して、やりがいを見出し出してもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週水曜日にカンファレンスを開きチームケアを確認している。また、毎月介護サービス計画書を見直しケアのあり方についてきめ細やかな対応をしている。	毎週水曜日のカンファレンスは利用者個人のケアについて検討している。利用者の趣味や特性を含んだ介護計画を作成している。また、利用者、家族、全職員の意見を取り入れた介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録と健康管理表及び業務日誌を詳細に記入し、出勤時に目を通し、捺印をすることを徹底している。また、個別支援記録にて一人ひとりの現在の体調・状態を確認し、支援や介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況・要望などに合わせて、買い物支援・帰省支援など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	教会への送迎、地域行事への参加など本人様の意にそえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はそのまま継続とし、往診時は必ず看護師が対応し医師との連携を取っている。	何名か往診の利用者がおり、それ以外は今までのかかりつけ医で対応している。また、事業所内に看護師を配置しているので医療面での安心感がある。かかりつけ医の受診時には、看護師から家族に利用者の医療面の様子などが伝えられている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化の際においても、看護師に連絡をとり、指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に協力医療機関である那須中央病院のMSWとは密接に連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度は「看取り」について、職員間の研修をしており、今年度、本格的に対応指針をつくり、職員が少しでも安心して対応できるようにしていきたい。	職員に看取りに関する研修を受けてもらい、事業所全体で取り組むことが出来る様に、今年度中に看取りの対応指針を完成させる予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修において、応急手当や初期対応の訓練をしている。 ご本人様の状態が変わっていくため、6か月・1年ごとにアンケートを取っていく事とする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施したり、非常用の食品などを備蓄している。地域との協力体制を取ることができるように3月に地区で行われる災害訓練に参加している。	年2回避難訓練を行い消防署の指導を受けている。毎年、地域で行われる防災訓練に参加し、大災害を想定した訓練も行われている。また、公民館に集合して地域の方と一緒に土嚢を作り、地域との連携強化にも役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スローガンにある「お年寄りを人生の先輩として尊重します」を実践している。 支援におけるNot to do リスト「1. 無視しない。否定しない。からかわない。」「2. おこらない。しからない。大きな声を出さない。」「3. 子供扱いしない。ため口をきかない。」を徹底している。	たじまの杜スローガンにもあるように、お年寄りを人生の先輩として礼節を保つために、敬語を使い対応をしている。楽しく生活するのはもちろんであるが、馴れ合いの関係に成らないように共通認識を持って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢が多すぎて自己決定は難しい場合は、本人が望むであろう事を2・3の中から選んで頂き、自分で決定する喜びを生活の中で多く持ってもらっている。(ビンゴゲームで景品を選ぶ・カラオケで何を歌うかなど)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴などは予定通りに入浴出来なくても、それに対応する。時間通りに出来なくても時間に追われるような対応はしないなど、職員が気持ちに余裕をもち、「～しなければならぬ」と思いすぎないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	原則的に本人の意向に沿うように支援しているが、状況に応じて常識的な身だしなみを促すこともある。ネイルをしてあげるととても喜ばれる。ヘアカットも本人の希望時期を見計らって頼むようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的なキッチンで調理しており、音や香りを楽しんでもらえるよう配慮している。また車椅子の方でも参加できるように高さを調整した流しを整備している。皆で、しもつかれを作ったり、団子を作ったりした。	食事の準備と片付けの場面で、利用者の残存機能を活かし、自分で出来ることは自分で行ってもらっている。イベント食では、利用者が料理する機会を得て、普段とは違った雰囲気を利用者の食欲を誘っている。また、月1回は外食することで気分転換を図っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表をつけ、食べる量、水分量を記入し、排尿、排便との関係、体調との関係性を把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにより一人ひとりご自身で口腔ケアを行い、状況により職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の尊厳に配慮した声かけを心がけ、見守りをするよう努めている。また、定時の声掛け誘導も行っているが、拒否があるときは無理強いしないようにしている。	利用者の尊厳を傷つけない様に、排泄時の声掛けは利用者ごとに工夫している。便秘の予防のため運動や便通を良くする食べ物を提供して、個々に応じた予防に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記入し排便確認をしながら、ヨーグルトやオリゴ糖を入れた飲み物を提供したり、病院から処方されている薬を服薬している。毎朝9:30～ラジオ体操第1、2を個人のペースに合わせて全員で行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ1日おきには入浴して頂けるよう声かけ促しをしているが、本人が希望しない時は、次の日に再び声かけし、無理強いほしないように努めている。	個浴と機械浴(小規模)があり利用者の身体状況に合った浴槽を選べ、安心して入浴できる環境である。入浴の回数は冬は週2回、夏は週3回を基本にしているが、利用者の希望に応じて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意に沿って支援し、又、促しによって就寝誘導を行っている。決して無理強いせず、ホールで過ごされる場合もある。また職員と会話することで、心が満たされ、安心して就寝される方が多い。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の付き添いや、家族からの報告により、服薬ファイルを作成し、変更があった時はその都度職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人の趣味で終わるのではなく、その趣味を皆で挑戦したりしている。絵手紙、貼り絵、カラオケ、ラジオ体操、映画鑑賞会、寺子屋(ドリル)などを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を聞いて外出はなかなか難しいが、可能な状態の時は出来るだけ支援できるよう工夫している。 例:紅葉狩り、花見、紫陽花見学、盆踊り ※外出した際は写真を撮影し、利用者ご本人・ご家族へ提供している。	利用者数名とドライブに行き、気分転換を図っている。また季節の花を見に公園に出かけている。外出先では写真を撮り、自分の思い出にしたり、家族に見せて会話をしている機会にもなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時、自宅から持参されたお金に関しては、ご自身で管理できる方については御本人様管理にしている。その方以外は事業所預りとしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な利用者には、本人自ら電話をしたり手紙のやり取り等の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	インテリアデザインを工夫している。暖炉のある共同の空間では利用者様にとって居心地がいいものだと思う。有線放送を流すことでリラックス出来たり、配慮された庭の景色で季節感を味わってもらっている。	事業所に有線放送を設置し、時間帯ごとに曲を変えて、利用者が落ち着いて過せるように工夫している。事業所内のインテリアや装飾は落ち着いた雰囲気での施設感がなく、居心地よく過せる環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	暖炉には自然に人が集まってくる。あたたかい火を見ながらうたたねをする方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスなどの家具を持ち込んで使われている。	室内の家具の配置や飾りつけは家族と本人が相談して、本人が安心して過せるように工夫している。利用者の趣味を部屋に飾ったり、それぞれが自分らしさのみられる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が把握しやすいようにトイレサインを表示したり、各居室を「番地」表示することにより認知症の方への空間認識の支援をしている。		